

大鹿村中央構造線博物館たより

126号



2019年11月発行

TEL:(0265)39-2205
staff69@mtl-muse.com

エコパークスキルアップ講座第2回 「木の見分け方を学ぼう！」を開催しました！

第2回では、5月に開催した第1回に引き続き、『ひるま植生Salon』の蛭間啓さんを講師にお迎えし、前回名札を付けた木を見ていき、特徴や見分け方を教わりました（写真1）。大鹿村民を中心に10名ほどの参加者でした。

木の識別は、幹の肌合いや樹型も手がかりになりますが、最後は葉が決め手になります。5月には葉が伸びきっておらず、あいまいだった木も今回は確認できました。秋なのでコナラ・ミズナラ・ハシバミやクサギなどの実も見られました（写真2）。シナノキを確認して名札を加えました。

前回付けた名札は55種ありましたので、事前に、それらの和名（カタカナ）・漢字・英名・系統（目科属）・学名のリストを用意しました。たとえばクマシデ属のうちイヌシデ・クマシデ・アカシデ・サワシバが見られますが、名前のもとになった幣束型の花序や幹の感じなどの共通の部分と、それぞれの葉のちがいなどが少し分かり始めたといったところです。

なかなか呑み込めずに同じことを何度も訊いてしまうのですが、蛭間さんは忍耐強く何度でも教えてくださるので、手がかりになる言葉だけは少し覚えられ始めたかなと言った感じです。ホオノキは別々の葉が一ヶ所から伸びているから別々に落葉するけれど、クルミやトチ（観察地には無い）は一枚の葉が切れ込んだ複葉だからドサッと落ちるといふ、目にウロコの話もありました。

来年度も引き続き開催予定です。季節によって風景も木の様子も変わります。今年は5月と9月末だったので、来年は4月・6月・10月にやりたいという参加者の希望でした。新規の参加者も歓迎いたしますので、是非ご参加ください。（河本）



写真1 一本ずつ観察していきます



写真2 実がなっているものもあります(ハシバミ)

鹿塩温泉と同じ起源の水が津和野に!?

9月26日(木)に、日本地質学会山口大会の巡検「津和野地域の古原生代花崗岩類と高塩濃度深部流体」に参加し、学会会場の山口県から県境を越えて、山陰の小京都として知られる島根県津和野に向かいました。街中を流れる川のところどころで、塩濃度の高い鉱泉水が炭酸ガスを伴い、自噴しているそうです。確かに、川を眺めてみると、ぶくぶく何かが湧き出ている様子が見られ(写真3)、その周辺が赤茶色になっている場所もあります。また、湧出口の周辺に方解石が晶出して、畔石を作っている場所もありました。この畔石に囲まれた水たまりをリムストーンプールと呼ぶそうです(写真4)。

この鉱泉水は、鹿塩温泉や有馬温泉と同様に、地下数十kmの深さのところまで沈み込んでいるフィリピン海プレートから絞り出された水が、断層などの割れ目を伝って上がってきている可能性があるそうです。(表1)。ただし、実際に地表で水が出ている場所は、断層の直上ではなく、結晶片岩の分布している場所の亀裂からとのことでした。そういえば、鹿塩温泉のある場所も中央構造線の直上ではなく、外帯側の結晶片岩の分布しているあたりです。大鹿村から遠く離れた地で、思わぬ共通点に親近感を覚えました。(宮崎)

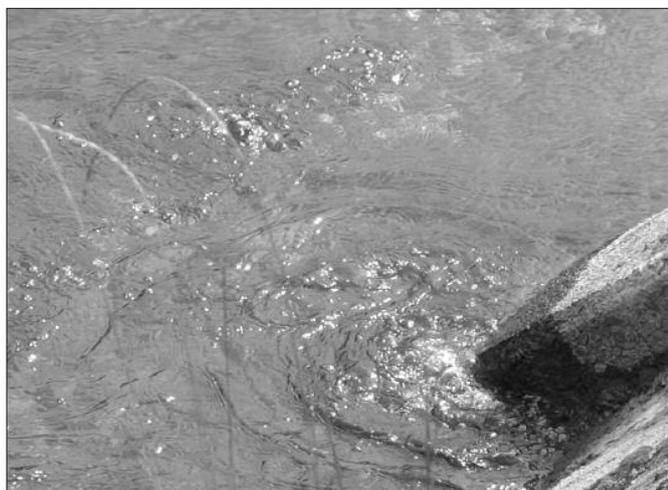


写真3 川の中から鉱泉水が湧き出ている



写真4 方解石が晶出してできたリムストーンプール

表1 有馬温泉、鹿塩温泉、津和野の鉱泉水の比較

	有馬温泉	鹿塩温泉	津和野の鉱泉水
ガス成分	炭酸ガス	なし	炭酸ガス
塩分濃度	海水の2倍	海水より濃い	海水の半分程度 (寺田鉱泉水と塩ヶ原鉱泉水)
周辺の断層	有馬-高槻構造線	中央構造線	大原湖-弥畝山西断層系

参考文献:

木村ほか, 2019, 津和野地域の古原生代花崗岩類と高塩濃度深部流体. 地質学雑誌, 125(8), 595-607.
村上ほか, 2015, 島根県津和野地域に分布する高塩濃度地下水の地球化学的特徴と湧出機構. 地下水学会誌, 57(4), 415-433.